

企業局経営戦略の進捗状況（令和3年度決算確定値）

1 令和3年度投資・財政計画の実績評価（令和3年度計画値と実績値の比較による評価）

（1）水道用水供給事業（4ページ）

- 供給水量の微増が続くなど、計画約13億円に対し、約27億円の純利益を確保している。今後、人口の減少は進むものの、水道普及率の向上や市町村等における自己水源から県水への転換による供給水量の増加により、継続して純利益を確保していく。
- 借入金残高は、新規借入金の抑制に努めており、約439億円と、計画約521億円に対し、約82億円下回っている。
- 純利益を確保しながら、浄水場の更新、管路の耐震化などを行っており、経営状況は良好である。

（2）工業用水道事業（4ページ）

- ユーザー企業との契約水量を一定量確保するなど、計画約24億円に対し、約20億円の純利益を確保している。
- 借入金残高は、新規借入金の抑制に努めており、約379億円と、計画約432億円に対し、約53億円下回っている。
- 純利益を確保しながら、浄水場の更新、管路の耐震化などを行っており、経営状況は良好である。

（3）地域振興事業（5ページ）

- 阿見東部工業団地のリース画地の時価評価を見直し、簿価の切り下げを行ったことから、計画24百万円の純利益に対し、456百万円の純損失となった。
- 新規に圏央道インターパークつくばみらいの開発に着手し、約70億円の企業債借入を行ったことから、借入金残高は約83億円となった。令和5年度に圏央道インターパークつくばみらいの分譲収入により返済する見込みである。
- 一時的に純損失を計上しているものの、令和5年度には純利益を確保する見込みである。

2 数値目標の達成状況

（1）水道用水供給事業（6～8ページ）

- 総収益対総費用率は、供給水量の微増が続き100%以上を達成している。
- 施設の改築・更新は、新治浄水場を廃止するために事業費ベースでの進捗は低いが、計画どおり6浄水場について完了又は事業を進めている。
- 管路耐震化は、整備費用の高騰や布設位置の見直しなどが発生しているが、着実に耐震化を進めている。

（2）工業用水道事業（9～10ページ）

- 総収益対総費用率は、引き続き100%以上を達成している。
- 施設の改築・更新は、新治浄水場を廃止するために事業費ベースでの進捗は低いが、計画どおり6浄水場について完了又は事業を進めている。
- 管路耐震化は、整備費用の高騰や布設位置の見直しなどが発生しているが、着実に耐震化を進めている。

(3) 地域振興事業 (11 ページ)

- これまで企業局が造成した阿見東部工業団地、江戸崎工業団地、つくば明野北部(田宿地区)工業団地の全てにおいて企業立地率 100%を達成している。
- 江戸崎工業団地の未造成区画(第5号画地)については、令和4年1月24日に(株)SHOEIと土地売買契約を締結し、江戸崎工業団地は完売となった。

3 その他の諸課題の取組状況

(1) 人材の確保・育成

- 技術系職員については、関係各課と調整し、毎年度必要な人員の確保に努めている。
- 浄水場の運転管理を委託している(公財)茨城県開発公社の人員体制については、基本的に退職者の補充で対応している。40代が74%程度となっている年齢構成の偏りについては、新規や中途採用が必要と認識しており、(公財)茨城県開発公社は県の出資団体であることから、水道施設の運営体制による必要人員等を検討したうえで、総務部所管課との調整に努めている。
- 技術の継承や知識習得のため、技術研修を計画的に4回開催し、人材の育成に積極的に取り組んだ。なお、研修は、運転管理を委託している(公財)茨城県開発公社と連携して開催するなど、より高い効果を発揮できるよう努めた。
- 運転管理へのAI導入や浄水場の集中監視などデジタル技術の活用により、技術力の補完を図ることとしている。

(2) コストダウンの取り組み

- 浄水場で使用する薬品等や高額な固定資産(備品)の購入にあたっては、本局で一括して一般競争入札を実施し、コストダウンを図っている。また、消耗品等についても、随意契約よりも競争性・公平性・透明性が確保されるオープンカウンター(公募型見積り合わせ)方式で実施し、コストダウンを図っている。
- 動力費を削減するため、ろ過池等の洗浄等の夜間実施、取水ポンプ・送水ポンプのピークシフト(昼間を減らし夜間を増やす)などを実施し、使用電力量の削減に努めている。
- 浄水場内屋外灯のLED化を推進しており、令和4年度には100%LED化できる見通しである。

(3) 水道事業の経営基盤強化に向けた広域化等の推進

- 令和2年4月に統合した県南西広域水道用水供給事業において、旧県西広域の新たな水需要に対応するため、余剰水が発生している旧県南広域からの水融通を行う連絡管(2区間)の整備を進めた。
- 鹿行5市、(公財)茨城県開発公社、水政課及び企業局による経営改善のための共同研究を実施し、「各受水団体が抱える課題に対する解決策を考えるうえで、広域化を具体的に検討することは、将来の水道事業の安定的かつ健全な経営にとって有意義である。」との研究成果を得た。
- 自己水源から県水道用水への転換を行った受水団体(4団体)に対し、増量した水量の基本料金の2分の1を減免することにより、県水転換を促進し、供給水量増による経営基盤強化を図った。
- 水道加入促進の取組を実施する受水団体(20団体)に対し、増加した使用水量

見合いの使用料金の2分の1を減免することにより、水道普及率を高め、供給水量増による経営基盤強化を図った。

(4) デジタル化の推進と新技術の導入

- 令和3年9月に「企業局DX推進計画」を策定し、浄水場維持管理費用の削減や、維持管理の省力化を図るため、デジタル技術の積極的な導入を推進することとした。令和3年度は、巡視点検データ電子化の試験導入、工業用水スマートメーターの実証試験、VR技術を用いた施設紹介動画制作、遠隔監視システムの先行導入により、運転管理の省力化及び危機管理の強化を図った。
- 霞ヶ浦浄水場で進めている「新たな浄水処理技術の導入」については、令和2年度に契約したオゾン処理棟築造工事及び、令和3年度に契約した電気・機械設備工事を施工しており、オゾン処理施設全体としては令和5年度に完成見込みである。また、局内にワーキンググループを設置し、実証プラントによる実験を重ね、最適な運転条件について検証した。

(5) ヘリコプター格納庫の民間売却

- 県が民間事業者による利用拡大と将来的な維持管理経費の負担軽減を目的につくばヘリポートを民間事業者に売却することにあわせ、企業局においても、経営の抜本的な改革を図るため、ヘリコプター格納庫を民間事業者に売却し、事業を廃止した。

令和3年度 投資・財政計画実績

水道用水供給事業

(単位：百万円)

項目		R3計画(A)	R3実績(B)	差引(B)-(A)	増減率
収益的 収 支	収益	18,001	18,302	301	101.7%
	料金収入	15,875	16,012	137	100.9%
	他会計補助金	126	126	0	100.0%
	長期前受金戻入等	2,000	2,164	164	108.2%
	費用	16,623	15,524	△ 1,099	93.4%
	維持管理費等	7,939	7,222	△ 717	91.0%
	減価償却費等	7,930	7,669	△ 261	96.7%
	支払利息	754	633	△ 121	84.0%
純利益	1,379	2,778	1,399	201.5%	
利益処分(減債・建設改良積立)		1,379	2,576	1,197	186.8%
繰越利益剰余金		0	202	202	
資本的 収 支	収入	3,384	2,428	△ 956	71.7%
	国庫補助金	1,437	1,013	△ 424	70.5%
	企業債	794	241	△ 553	30.4%
	他会計補助金等	965	1,078	113	111.7%
	他会計借入金	188	96	△ 92	51.1%
	支出	11,055	9,395	△ 1,660	85.0%
	建設改良費	7,899	6,158	△ 1,741	78.0%
	償還金等	3,156	3,237	81	102.6%
差引	△ 7,671	△ 6,967	704	90.8%	
借入金残高		52,146	43,987	△ 8,159	84.4%
うち企業債残高		46,988	40,284	△ 6,704	85.7%

工業用水道事業

(単位：百万円)

項目		R3計画(A)	R3実績(B)	差引(B)-(A)	増減率
収益的 収 支	収益	12,634	12,471	△ 163	98.7%
	料金収入	11,324	11,154	△ 170	98.5%
	長期前受金戻入等	1,310	1,317	7	100.5%
	費用	10,206	10,431	225	102.2%
	維持管理費等	4,273	4,878	605	114.2%
	減価償却費	5,623	5,350	△ 273	95.1%
	支払利息	310	203	△ 107	65.5%
純利益	2,428	2,040	△ 388	84.0%	
利益処分(減債・建設改良積立)		2,428	1,463	△ 965	60.3%
繰越利益剰余金		0	0	0	
資本的 収 支	収入	3,383	1,262	△ 2,121	37.3%
	国庫補助金	543	407	△ 136	75.0%
	企業債	2,440	621	△ 1,819	25.5%
	その他	400	234	△ 166	58.5%
	支出	9,263	7,666	△ 1,597	82.8%
	建設改良費	5,570	4,332	△ 1,238	77.8%
	償還金等	3,693	3,334	△ 359	90.3%
差引	△ 5,880	△ 6,404	△ 524	108.9%	
借入金残高		43,231	37,966	△ 5,265	87.8%
うち企業債残高		24,073	18,807	△ 5,266	78.1%

令和3年度 投資・財政計画実績

格納庫事業

(単位：百万円)

項 目		R3計画(A)	R3実績(B)	差引(B)-(A)	増減率
収益的 収 支	収益	39	35	△ 4	89.7%
	料金収入	39	31	△ 8	79.5%
	雑収益等		4	4	
	費用	25	99	74	396.0%
	維持管理費等	10	99	89	990.0%
	減価償却費	15	0	△ 15	0.0%
	支払利息	0	0	0	
純利益	14	△ 64	△ 78	△ 457.1%	
利益処分（建設改良積立）		14	0	△ 14	0.0%
繰越利益剰余金		0	0	0	
資本的 収 支	収入	0	55	55	
	支出	0	0	0	
	償還金等	0	0	0	
	差引	0	55	55	
借入金残高		0	0	0	
うち企業債残高		0	0	0	

土地造成事業

(単位：百万円)

項 目		R3計画(A)	R3実績(B)	差引(B)-(A)	増減率
収益的 収 支	収益	61	428	367	701.6%
	土地リース収入	61	42	△ 19	68.9%
	分譲収入	0	386	386	
	費用	51	820	769	1607.8%
	維持管理費等	50	338	288	676.0%
	土地売却原価	0	482	482	
	支払利息	1	0	△ 1	0.0%
純利益	10	△ 392	△ 402	△ 3920.0%	
利益処分（土地造成積立）		10	0	△ 10	0.0%
繰越利益剰余金		0	△ 362	△ 362	
資本的 収 支	収入	0	7,108	7,108	
	企業債等	0	7,108	7,108	
	支出	0	7,263	7,263	
	土地造成費	0	7,263	7,263	
	償還金	0	0	0	
	差引	0	△ 155	△ 155	
借入金残高		1,500	8,397	6,897	559.8%
うち企業債残高		0	7,097	7,097	

経営戦略における数値目標の令和3年度実績値

1 水道用水供給事業

(1) 数値目標

【基本目標1】 計画的かつ効率的な経営の推進

【評価の凡例】

- ◎ R6までに確実に達成
- R6までに達成の見込み
- △ R6までに達成できない可能性がある

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	目標値 (R6)	評価
1	総収益対総費用率 (%)	費用が収益によってどの程度賄われているかを示す	125.6	120.2	118.2	114.3	121.2	117.9	毎年100以上	◎ 総収益で総費用を賄えている状況にある。今後、人口の減少は進むものの、水道普及率の向上や市町村等における自己水源から県水への転換による供給水量の増加により、継続して目標値の達成が見込まれる。
2	営業収益対営業費用比率 (%)	営業費用が営業収益によってどの程度賄われているかを示す	117.6	110.9	109.2	109.4	110.4	108.2	毎年100以上	◎ 営業収益で営業費用を賄えている状況にある。今後、人口の減少は進むものの、水道普及率の向上や市町村等における自己水源から県水への転換による供給水量の増加により、継続して目標値の達成が見込まれる。
3	借入金残高 (億円)	借入金残高 (負債) の状況	530	515	504	502	468	440	463	◎ 資金状況をみながら、新規借入金の抑制に努めていることから、年々減少している。今後は、市町村への県水供給の増量に必要な送水施設整備費の増大などにより、借入金の増加が見込まれる。
4	粉末活性炭使用量 (t)	オゾン処理導入による使用量削減	270	400	300	300	350	270	100	△ 水戸浄水場では使用量が増加したものの他場で減少したため、全体としては減少した。
5	粒状活性炭の再生量 (m ³) [霞ヶ浦浄水場]	吸着活性炭から生物活性炭に移行することによる活性炭寿命の延命	3,400	2,900	3,200	2,900	3,600	4,200	1,200	△ 既設から容量の大きな新設の粒状活性炭ろ過池へ活性炭を移設したため、再生量が増加した。
6	水道普及率 (%)	水道利用者の増	94.0	94.4	94.6	94.7	94.9	95.1	95.4	○ 水道普及率は、着実に向上しており、このまま推移すれば目標を達成できる見込み。 ※R3実績値は、R3年3月末時点の水道普及率として公表された値

【基本目標2】 安全で安定した水の供給

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	目標値 (R6)	評価
7	施設の改築・更新の進捗状況(%) [事業費ベース]	機能維持に関する建設改良投資の進捗状況(施設更新事業) 【上工水】	27.3 (30.6)	35.7	43.9	53.7	54.6	57.9	100	○ 浄水場配置の適正化の検討に伴い新治浄水場の更新は先送りしているが、他の浄水場については計画に基づき事業が進んでいる。
		策定時(H25) 事業費(百万円) 47,021 執行額(百万円) 3,066 進捗率(%) 6.5	47,021 12,834 27.3	47,021 16,780 35.7	47,021 20,649 43.9	47,021 25,229 53.7	47,021 25,687 54.6	47,021 27,248 57.9	R3計画値 47,021 27,391 58.3	○ R3実績額 C=1,561,754千円(霞ヶ浦オゾン、瀬沼川設計、阿見設計) ※霞ヶ浦オゾンは最終補正額 R3当初予算C=1,703,977千円(")
8	建築物(取水ポンプ棟、送配水ポンプ棟など)の耐震補強の進捗状況(%) [事業費ベース]	S56以前に整備された建築建屋(常時無人)の耐震化の進捗状況(第2次耐震化計画)【上工水】	13.1	20.4	27.3	30.1	32.6	35.0	100	◎ 耐震補強計画の見直し等により工事費の低減を図っており、事業費ベースの進捗率は低いものの、令和3年度までに対象9棟の耐震化が完了できた。
		策定時(H25) 棟数(全9棟) 0棟 事業費(百万円) 715 執行額(百万円) 2 進捗率(%) 0.2	1棟 715 94 13.1	3棟 715 146 20.4	4棟 715 195 27.3	6棟 715 215 30.1	6棟 715 233 32.6	9棟 715 250 35.0	R3計画値 9棟 715 271 37.9	◎ R3実績額 C=17,215千円(鰐川耐震補強工事) R3当初予算C=37,851千円(")
9	管路の漏水事故発生率(件/100km)	管路更新や適切な機能保全工事による安定した水の供給【上工水】	1.2	1.1	0.9	0.5	1.3	1.1	0.5	○ 主に腐食やピンホールによる小規模なものであるが、老朽化が進む中で発生率を横ばい傾向に抑えることができています。引き続き、管路の更新等により漏水事故発生率の削減を図る。
		策定時(H25) 管路総延長(km) 1,330 漏水事故発生件数(件) 13 漏水事故発生率(件/100km) 1.0%	1,330 16 1.2	1,330 14 1.1	1,330 12 0.9	1,330 7 0.5	1,330 17 1.3	1,330 14 1.1	R3計画値 1,330 — —	○ 同上
10	管路耐震化率(%) [管路延長ベース]	管路耐震化の進捗状況	61.7	62.4	63.6	64.7	65.4	65.9	74.8 (74.4)	△ 整備費用の高騰や布設位置の見直しなどにより、計画に対する進捗率は鈍いものの、着実に耐震化が図られている。 ※目標値()書きは旧目標
		策定時(H25) 管路総延長(km) 773.9 整備済み(km) 436.6 進捗率(%) 56.4	773.9 477.4 61.7	773.9 483.1 62.4	773.9 491.9 63.6	773.9 500.4 64.7	773.9 506.4 65.4	773.9 509.8 65.9	R3計画値 773.9 539.2 69.7	△ 同上
11	事業間連絡管の整備状況(%) [事業費ベース]	広域水道事業間をつなぐ緊急連絡管の整備状況(第2次耐震化計画)	4.7	11.0	21.2	36.7	56.8	75.8	100 ※R5:L=33km	○ 整備費用の高騰や整備計画の見直しなどが発生しているが、概ね計画どおりの進捗が図られている。
		策定時(H25) 管路延長(km) 0 管路進捗率(%) 0.0 事業費(百万円) 5,205 執行額(百万円) 0 事業費進捗率(%) 0.0	1.1 3.3 5,205 245 4.7	2.9 8.8 5,205 570 11.0	6.1 18.5 5,205 1,104 21.2	11.5 34.8 5,205 1,911 36.7	17.8 53.9 5,205 2,956 56.8	21.3 64.5 5,205 3,944 75.8	R3計画値 21.3 64.5 5,205 4,592 88.2	○ R3実績額 C= 987,578千円(利根~水海道、霞ヶ浦~新治、鹿島~水戸) ※利根~水海道は最終補正額 R3当初予算C=1,635,662千円(")

【基本目標3】 利用者サービスと情報発信の充実

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	目標値 (R6)	評価
12	カビ臭の除去率を高めた水道水の供給（水質基準） 2-MIB、ジェオスミン 10ng/ℓ以下	水道水質の向上	2-MIB値 100% ジェオスミン値 100%	2-MIB値 100% ジェオスミン値 100%	2-MIB値 100% ジェオスミン値 100%	2-MIB値 99% ジェオスミン値 100%	2-MIB値 98% ジェオスミン値 100%	2-MIB値 100% ジェオスミン値 100%	2-MIB、ジェオスミンともに 5ng/ℓ以下を 100%達成	○ ※達成率は、5ng/ℓを超えなかった回数／検査回数 原水水質の状況に大きく影響を受けるため、その際は活性炭の再生強化により対応に努めている。
13	普及啓発事業等への参加者数 (人)	水道水の普及啓発及びPR活動の状況	19,097	17,746	20,336	20,581	58	218	20,000	△ 新型コロナウイルス感染症拡大のため、浄水場見学受入れやイベント開催・出展等ができなかったが、オンライン会議ツールを使用したリモート見学を試験的に実施した。感染症流行状況を考慮しながら、見学受入れや対面でのPRのあり方について引き続き検討していく必要がある。
14	企業局ホームページのアクセス数（月平均：件）	広報・情報発信の強化【上工水】	15,755	11,446	9,498	16,091	7,501	12,474	15,000	○ コロナ禍によるPR回数の減少に伴い、令和2年度にはアクセス数が減少したが、令和3年4月にホームページをリニューアルし、本局各課及び各出先機関で直接更新できるようにしたところ、更新回数が増え、アクセス数の増加に繋がったものとみられる。
15	水道水の安全性のPR回数 (回)	水道水の安全性についての情報発信	25	25	26	23	12	12	25	△ 新型コロナウイルス感染症拡大のため、浄水場見学受入れやイベント開催・出展等ができなかったが、ホームページ等を通して定期的に水質情報等を発信した。

【基本目標4】 環境保全への貢献

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	目標値 (R6)	評価
16	浄水場屋外灯のLED導入率 (%)	省エネ機器の導入状況【上工水】	36.4	36.4	54.5	63.6	81.8	90.9	100	○ 当初の計画どおり導入しており、外灯LEDの導入率は増加している。今後も計画どおりに導入する見込み。
17	中央監視室照明のLED導入率 (%)	省エネ機器の導入状況【上工水】	27.3	27.3	90.9	100.0	100.0	100.0	100	◎ R1年度に目標達成
18	エネルギー消費原単位 (kWh/千㎡)	水処理コスト・環境影響負荷の低減 ※H25：437	419 4.1%削減	415 5.0%削減	418 4.3%削減	414 5.3%削減	415 5.0%削減	416 4.8%削減	H25比毎年 0.1%削減	◎ 霞ヶ浦浄水場にて新粒状活性炭ろ過池への運用切替に伴い、既設と新設の同時運用を行ったことによる使用電力量の増加や水海道浄水場の原水臭気対応のためのオゾン増量など、原単位悪化要因はあったものの目標を達成している。

2 工業用水道事業

(1) 数値目標

【基本目標1】 計画的かつ効率的な経営の推進

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	目標値 (R6)	評価
1	総収益対総費用率 (%)	費用が収益によってどの程度賄われているかを示す	147.6	134.7	133.3	128.4	129.2	119.6	毎年100以上	◎ 総収益が総費用を上回っており、収益で費用を賄えている状況にある。今後も引き続き純利益を確保できる見通しであるため、目標値は達成できると見込まれる。
2	営業収益対営業費用比率 (%)	営業費用が営業収益によってどの程度賄われているかを示す	127.1	123.6	121.8	118.2	118.2	117.4	毎年100以上	◎ 維持管理費や職員給与費などの営業費用が、料金収入で賄えている状況にある。今後も同様の状況が続く見通しであるため、目標値は達成できると見込まれる。
3	借入金残高 (億円)	借入金残高 (負債) の状況	498	475	459	437	404	380	428	◎ 資金状況をみながら、新規借入金の抑制に努めていることから、年々減少している。引き続き、借入金の抑制に努めることにより、目標値は達成できると見込まれる。
4	契約水量 (万㎡/日)	契約水量の増	100	101	102	102	102	102	109	○ 近年は横ばいで推移。企業における業態の変更や節水技術の進展により、大幅な契約水量増は見込みにくい状況。なお、県南西工水では、圏央道インターパークつくばみらいなど、新しい工業団地の造成により、一定の新規需要が見込まれる。

【基本目標2】 安定した水の供給

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	目標値 (R6)	評価
5	施設の改築・更新の進捗状況 (%) [事業費ベース] ※再掲	機能維持に関する建設改良投資の進捗状況 (施設更新事業) 【上工水】	27.3 (30.6)	35.7	43.9	53.7	54.6	57.9	100	○ 浄水場配置の適正化の検討に伴い新治浄水場の更新は先送りしているが、他の浄水場については計画に基づき事業が進んでいるため、評価できる。
6	建築物 (取水ポンプ棟、送配水ポンプ棟など) の耐震補強の進捗状況 (%) [事業費ベース] ※再掲	S56以前に整備された建築建屋 (常時無人) の耐震化の進捗状況 (第2次耐震化計画) 【上工水】	13.1	20.4	27.3	30.1	32.6	35.0	100	◎ 耐震補強計画の見直し等により工事費の低減を図っており、事業費ベースの進捗率は低いものの、令和3年度までに対象9棟の耐震化が完了できた。
7	管路の漏水事故発生率 (件/100km) ※再掲	管路更新や適切な機能保全工事による安定した水の供給 【上工水】	1.2	1.1	0.9	0.5	1.3	1.1	0.5	○ 主に腐食やピンホールによる小規模なものであるが、老朽化が進む中で発生率を横ばい傾向に抑えたことは評価できる。引き続き、管路の更新等により漏水事故発生率の削減を図る。
8	管路耐震化率 (%) [管路延長ベース]	管路耐震化の進捗状況	39.4	39.9	41.8	43.7	43.9	45.6	59.7	△ 整備費用の高騰や布設位置の見直しなどにより、計画に対する進捗率は鈍いものの、着実に耐震化が図られている。
		策定時 (H25) 管路総延長 (km) 563.8 整備済み (km) 193.8 進捗率 (%) 34.4	563.8 222.2 39.4	563.8 225.0 39.9	563.8 235.9 41.8	563.8 246.1 43.7	563.8 247.5 43.9	563.8 257.3 45.6	R3計画値 563.8 301.1 53.4	△ 同上

【基本目標3】 利用者サービスと情報発信の充実

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	目標値 (R6)	評価
9	低濁度水の供給 月平均濁度 15度以下	顧客満足度の向上	8.4度	8.2度	7.5度	8.5度	8.7度	8.7度	10度以下	◎ ※鹿島I期における工水配水の濁度の年間平均値を採用 費用対効果を念頭にほぼ均等な濁度管理に努めている。
10	企業局ホームページのアクセス数（月平均：件） ※再掲	広報・情報発信の強化【上工水】	15,755	11,446	9,498	16,091	7,501	12,474	15,000	○ コロナ禍によるPR回数の減少に伴い、令和2年度にはアクセス数が減少したが、令和3年4月にホームページをリニューアルし、本局各課及び各出先機関で直接更新できるようにしたところ、更新回数が増え、アクセス数の増加に繋がったものとみられる。

【基本目標4】 環境保全への貢献

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	目標値 (R6)	評価
11	浄水場屋外灯のLED導入率（%） ※再掲	省エネ機器の導入状況【上工水】	36.4	36.4	54.5	63.6	81.8	90.9	100	○ 当初の計画どおり導入しており、外灯LEDの導入率は増加している。今後も計画どおりに導入する見通しであり、令和4年度に100%（目標値）となる見込み。
12	中央監視室照明のLED導入率（%） ※再掲	省エネ機器の導入状況【上工水】	27.3	27.3	90.9	100.0	100.0	100.0	100	◎ R1年度に目標達成
13	エネルギー消費原単位 (kWh/千㎡)	水処理コスト・環境影響負荷の低減 ※H25：209	209 増減なし	211 1.0%増	211 1.0%増	209 増減なし	213 1.9%増	211 1.0%増	H25比毎年 0.1%削減	△ 水海道浄水場の配水ポンプ圧力低減計画の中止や那珂珂川浄水場の受水不良ユーザーへの配水圧力増圧対応などから原単位が悪化した。

3 地域振興事業

(1) 数値目標

【基本目標1】 計画的かつ効率的な経営の推進

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	目標値 (R6)	評価
1	入居者の確保（社） 〔格納庫事業〕	賃貸料収入の確保	5	5	5	5	4	4	5	－ 残り1区画は短期賃貸をしているため、空き区画はない状況。なお、民間事業者への売却により、令和3年度末をもって事業終了。
2	借入金残高（億円） 〔格納庫事業〕	借入金残高（負債）の状況	1	1	1	0	0	0	(R2) 0	◎ 令和元年度完済
3	阿見東部工業団地立地率 （%）〔土地造成事業〕	経営の安定	93	100	100	100	100	100	100	◎ 完了（18社立地）
4	江戸崎工業団地立地率 （%）〔土地造成事業〕	経営の安定	91	100	100	100	100	100	100	◎ 未造成区画（第5号画地）について、令和4年1月24日に（株）SHOEIと土地売買契約を締結し、江戸崎工業団地は完売（8社立地）となった。
5	つくば明野北部工業団地 立地率（%） 〔土地造成事業〕	経営の安定	100	100	100	100	100	100	100	◎ 完了（1社立地）